

米子工業高等専門学校	開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	現代社会
科目基礎情報				
科目番号	0024	科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電気情報工学科	対象学年	2	
開設期	通年	週時間数	2	
教科書/教材	新現代社会 新訂版 (清水書院)、新現代社会 新訂版 ワークノート (清水書院)			
担当教員	布施 圭司			
到達目標				
現代社会の政治や経済のしくみについて基礎的な事項を説明できる。 日本の公民的分野について基礎的な事項を説明できる。 現代日本が直面している政治、経済、国際関係に関する主な問題を理解できる。				
ルーブリック				
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
政治的分野について理解できる。	政治的分野についてよく理解できている	政治的分野について概ね理解できている	政治的分野についての理解が不十分	
経済的分野について理解できる。	経済的分野についてよく理解できている	経済的分野について概ね理解できている	経済的分野についての理解が不十分	
公民的分野について理解できる。	公民的分野についてよく理解できている	公民的分野について概ね理解できている	公民的分野についての理解が不十分	
学科の到達目標項目との関係				
学習・教育到達度目標 A				
教育方法等				
概要	政治、経済など現代の社会のしくみを理解し、現代の社会が直面している諸問題や諸課題を学習する。社会のあり方や社会における自己のあり方について理解を深める。			
授業の進め方・方法	基礎的事項の修得を重視するので、毎回着実に学んでゆくこと。			
注意点	授業外では新聞などで世界の出来事に注意を払い、また人文社会関係の教養書を読むことが望ましい。 毎火曜日の16-17時をオフィスアワーとするので、質問などがある学生は研究室に来ること。			
授業計画				
		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	授業のガイダンス、現代社会の諸課題 (1) 生命	生命倫理について理解できる。
		2週	現代社会の諸課題 (2) 環境・情報	環境問題・情報化について理解できる。
		3週	青年のあり方と現代 (1) 青年期のあり方	青年期のあり方について理解できる。
		4週	青年のあり方と現代 (2) アイデンティティ	アイデンティティについて理解できる。
		5週	現代に生きる古典の知恵 (1) 知の源流	知の源流について理解できる。
		6週	現代に生きる古典の知恵 (2) 生き方と宗教	キリスト教・イスラム教・仏教・儒教について理解できる。
		7週	近・現代史の思想と社会 (1) 人間の尊厳と近代社会	人間の尊厳と近代社会についてについて理解できる。
		8週	前期中間試験	
	2ndQ	9週	近・現代史の思想と社会 (2) 近代社会の問題	近代社会の問題について理解できる。
		10週	憲法と人権保障 (1) 日本国憲法の制定とその原理	日本国憲法について理解できる。
		11週	憲法と人権保障 (2) 人権の保障	人権の保障について理解できる。
		12週	憲法と政治参加 (1) 国会	国会について理解できる。
		13週	憲法と政治参加 (2) 内閣・行政機関	内閣・行政機関について理解できる。
		14週	憲法と政治参加 (3) 裁判所	裁判所について理解できる。
		15週	定期試験	
		16週	答案返却とまとめ	期末試験問題について自らの課題を認識し修正できる。
後期	3rdQ	1週	憲法と平和	憲法と平和について理解できる。
		2週	現代の経済社会 (1) 資本主義のしくみ	資本主義のしくみについて理解できる。
		3週	現代の経済社会 (2) 企業	企業について理解できる。
		4週	現代の経済社会 (3) 金融	金融について理解できる。
		5週	現代の経済社会 (4) 財政	財政について理解できる。
		6週	現代の経済社会 (5) 経済成長と景気変動	経済成長と景気変動について理解できる。
		7週	現代の経済社会 (6) 貿易と国際収支	貿易と国際収支について理解できる。
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	現代の経済社会 (7) 外国為替	外国為替について理解できる。
		10週	経済活動のあり方 (1) 雇用・労働問題	雇用・労働問題について理解できる。
		11週	経済活動のあり方 (2) 社会保障	社会保障について理解できる。
		12週	経済活動のあり方 (3) 消費者問題	消費者問題について理解できる。
		13週	経済活動のあり方 (4) 農業と食料	農村と食料について理解できる。
		14週	国際社会 主権国家と国際法	主権国家と国際法について理解できる。
		15週	定期試験	
		16週	答案返却とまとめ	期末試験問題について自らの課題を認識し修正できる。
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標				

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	社会	公民的分野	人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察できる。	2	前3,前4,前5,前6	
				自己が主体的に参画していく社会について、基本的人権や民主主義などの基本原理を理解し、基礎的な政治・法・経済のしくみを説明できる。	2	前1,前2,前7,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15	
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0